

俳句を写真画像と共に楽しむ <奇数月28日発刊>

# しゃらくかい 写楽同会

令和6年初春の号 [vol.85]  
(1・2月)

<https://isamusouma.web.fc2.com/>

投稿先; kinuko\_thompson@hotmail.com

© 2024 Sharakukai



イメージ写真

初春(1・2月)の兼題「喫茶店・カフェ・スナック」  
出題:久芽

## 写真俳句の部

(掲載ランダム)



茶友だち話尽きぬや去年今年

茶友だち話尽きぬや去年今年こそごとし

(季語: 去年今年=新年)

陽閑



静かなる秋の湖畔のカフェテラス

(季語: 秋=秋)

昼寝覚



待ち侘びて  
さめし珈琲外は雪

待ち侘びてさめし珈琲外は雪

(季語: 雪=冬)

準坊



百均で兼題発見冬ぬくし

百均で兼題発見冬ぬくし

(季語: 冬ぬくし=冬)

千泉





短日や  
珈琲一杯  
長話し

短日や珈琲一杯長話し

(季語：短日=冬)

久芽



空港のカフェのしじまや雪しんしん

空港のカフェのしじまや雪しんしん

(季語：雪=冬)

福来雀

[-12℃、早朝のヘルシンキ・ヴァンター空港にて]



寒い朝ポットのぬるま湯オーイお茶

寒い朝ポットのぬるま湯オーイお茶

(季語：寒い朝=冬)

梵木



春永や老舗麻布の一服茶

春永や老舗麻布の一服茶

(季語：春永=新春)

iSAMU



屠蘇気分ゆたり微睡むJAZZ喫茶

屠蘇気分ゆたり微睡むJAZZ喫茶

(季語：屠蘇=新年)

池福楼

## 俳句の部

(掲載ランダム)

かじかむ手珈琲の香に誘われて 久芽 (季語:かじかむ=冬)

冷える夕珈琲パックで暖をとる 梵木 (季語:暖房(暖)=冬)

冬日向窓の大きな喫茶店 福来雀 (季語:冬日向=冬)

[兼題イメージ写真の喫茶店。本や編み物を持ち込みたい気分になりました]

純喫茶ひびき懐かし冬の夜 千泉 (季語:冬の夜=冬)

[純喫茶は最近あまり見ませんね]

また一つ消えゆくカフェ十二月 昼寝覚 (季語:十二月=冬)

初夢や亡き娘の名付けし我がカフェ マム (季語:初夢=新年)

冬日向まばたき耽る本にカフェ 陽閑 (季語:冬日向=冬)

冬茜サイフォン珈琲金の泡 池福楼 (季語:冬茜=冬)

三が日明けていそいそ馴染みカフェ 準坊 (季語:三が日=新年)

[珈琲中毒です]



### 季語抜粋

**去年今年** (こそことし) = 元日の午前零時を境に去年から今年に移り変わる事。一瞬のうちに年が変わることの感慨が籠る。【新年】

**三が日** (さんがにち) = 一月一日・二日・三日。三が日を過ぎると正月気分もやや薄れてゆく。【新年】

**春永** (はるなが) = 昼の永い春の季節や、初春から晩春まで春の末永いことを言祝ぐ言葉であるが、多くは新年を褒め称えてつかう。さらに春永には、「いずれ暇なときに」「またゆっくりと」という意味の使い方もあることから、正月を迎えてのんびりした風情が伝わってくる。【新春】

**冬茜** (ふゆあかね) = 冬夕焼・寒夕焼・寒茜。単に夕焼といえば夏の季語であるが、冬の夕焼にもまた、鮮やかな美しさがある。裸木を染め、西空を燃え立たせて、たちまち薄れてしまう。【冬】

**冬日向** (ふゆひなた) = 寒気の中の輝かしい冬の太陽、あるいはその日差しをいう。【冬】

**短日** (たんじつ) = 冬は日の暮れが早い。秋分を過ぎると、少しずつ昼の時間が短くなり、冬至の頃には極限に達する。一日がたちまち過ぎてしまう気ぜわしさがある。【冬】

池福楼

アベ一派キックバックに蹴りかませ！ [蹴りとは次回落選させる事です]

災害服着ている首相笑ってる [緊張感まるで無し]

準坊

官邸でなんてピカピカ作業服 [作業服は現場でしょ 総理]

傘寿過ぎまだ頑張るか頑張れるか [あちこちにボロが・・・]

陽閑

喫茶店昔の香り強かった [老いて鼻効なくなったと気づき]

アラやあだ体重計に文句言い [正直です]

愛猫の甘噛み耐えて苦笑い [愛あれば]

何事に結論急ぐ先がない [シニア]

福朱雀

また値上げ! コスパ最強おうちカフェ [スタバの敷居が高くなる]

冷蔵庫開けて『要るものなんだっけ』 [サクサクの調理がここでプツン]

千泉

先日図書館で見つけた本(90歳以上シルバー川柳)(河出書房新社)の中から数句紹介します。

歳ですと謙遜したらうなずかれ (90歳)

婆遣し電化製品先に逝く (90歳)

ボケた振り相手の本音耳痛い (91歳)

スニーカーちょっと可愛い老い二人 (92歳)

福笑いではありませんムクミです (95歳)

お年寄り転ばぬ先に転び方 (98歳)

妻の手や握り返しの暖かさ (98歳)

[私も元気で上記の方々のように詠句を楽しめるようにしたいです]



春(3・4月)の号 兼題「風」

イメージ写真

- 梵木さんより春3・4月号の兼題を「風」と出題していただきました。隔月という課題になりますが季節は幅広く捉えて自由に発想を広げて作句をお願いします。

締め切りは令和6年3月20日です。

- 写楽句会にご意見、ご希望等ございましたらお知らせください。

下記のiSAMUさんのホームページから「写楽句会」をクリックして頂くと写楽句会のバックナンバーが閲覧できます。

<https://isamusouma.web.fc2.com/>

写楽句会 連絡先: kinuko\_thompson@hotmail.com

© 2024 Sharakukai